

# オクタノルムジャパン

## 展示会用システム部材の世界標準企業、 メイドインつづきとともに全国展開目指す

オクタノルムジャパンは、ドイツのバーデン＝ヴュルテンベルク州に本社を構える展示会用システム部材を販売するオクタノルム社の日本法人です。ブース用に開発されたアルミ製フレーム「オクタノルム」にパネル等を組み合わせることで、壁面や展示カウンター、ショーケースなどを自在に作り上げられるのが特徴です。さらに組立・解体が容易な上、耐久性にも優れることから、海外のシステム部材市場では高いシェアを誇っています。日本における代理店として1996年に設立された同社は、2014年に本社を沖縄県から横浜市緑区に移転。その後、事業拡大を受け手狭になったことから、18年に都筑区に転居して今日に至っています。



話し手：瀬戸健之介社長



同社の開発した特殊な展示会用設営部材

### ■欧米市場ではデファクトスタンダード

親会社のオクタノルム社は、1969年にドイツで設立された展示会用設営部材「オクタノルム」の販売会社です。OCTAとは八角形、NORMとはルールとか合理的という意味で、その名の通り、八角形の特異な断面を持つアルミ製ポールと、そのポールに取り付けるアルミ製ビーム、ポールとビームで構成された面にはめ込むパネル等によって空間に壁や装飾を自由自在に作っていくシステムです。

ラチェットと呼ぶ専用工具を使って簡単に素早くブースを組立・解体できることから、欧米の展示会用システム部材の世界ではデファクトスタンダード（事実上の標準）の地位を確保しており、現在、世界43カ国にパートナー拠点があります。

当社は96年、「オクタノルム」の日本代理店業務を担う有限会社として誕生しました。日本では以前はそうでしたが、展示会用のブースというと木製の仮設構造のタイプが主流で、何度でも使えるサステナブルなシステムではありませんでした。オクタノルムのアルミシステムは丈夫で何度も使いまわせる部材なので、日本の展示会業界でも急速に普及しました。しかし10年、20年といった長い期間の耐久性がある製品だけに、リピーターからの発注には限度があり、売上が伸び悩みました。

### ■大型国際展示会場を擁するおしゃれな街「横浜」を拠点に

私が前任から社長職を引き継いだ2014年、沖縄からの消極的な販売では売り上げが下がる一方だと考え、株式会社へ転換すると同時に本社を横浜市緑区に移しました。

横浜市に拠点を構えた理由は、東京ビッグサイトや幕張メッセなどにもアクセス可能な場所で、パシフィコ横浜という立派な展

示会場があったから。また、「おしゃれな街」、という点も会社の新しいイメージ戦略を行うのにふさわしいと考えたからです。営業面でも、イベント業界以外のユーザーを本格的に開拓し始めました。

こうしたチャレンジは、結果としてうまく当たりました。解体時に廃棄物が発生する木製の仮設構造に比べて「オクタノルム」は環境に優しく、イニシャルコスト（初期費用）はかかるものの製品寿命を考慮したトータルコストでは安いという評価が広がった結果、緑区の拠点がたちまち手狭になり、17年には、より大きなスペースを求めて現在の都筑区に引っ越しました。

さらに今回のコロナ禍も、「怪我の功名」ではありませんが、イベント業界以外の例えば病院やPCR検査場、ワクチン接種会場でのパーティション用途やレンタル倉庫、レンタルオフィス向けの間仕切りなど、新しい用途が一気に広まりました。現在、売上のおよそ20%をイベント以外でのパーティション関連が占めるまでになっています。

### ■地域ネットワークフル活用で事業展開

こうした中、当社は18年に都筑区のモノづくり推進事業「メイドインつづき」に加盟し、「テクニカルショウヨコハマ」への出展などを通じて「オクタノルム」の魅力を広く訴求する活動を行っています。同時に、同区内におけるガラスや鋼材加工といった異業種企業とのネットワークも大きな力となりつつあります。金額的に区外の会社に頼んだ方が安いという場面でも、納期が早かったり、輸送費が抑えられたりと、メリットを実感しているからです。今後も、区内や近隣の企業との連携を強めながら、業容拡大に努めていきたいと考えています。

（取材日：2023年10月）